日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO.107

令和３年（2021 年）

令和４年度日本庭園学会
全国大会開催案内

発行　日本庭園学会（会長 大澤 伸啓）
〒 156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科　庭園技法材料学研究室
TEl(03)-5477-2428(粟野 隆 理事)

令和４年度日本庭園学会全国大会開催案内

令和４年度の全国大会ならびに総会は、福井県福井市にて、「庭園の保存と活用～日本庭園・学のこれまでとこれから～（仮題）」をテーマに開催します。参加方法は、現地参加とリモート参加のいずれかを選択いただきます。

リモート参加をご希望の方は、勝手ながら事前に Web 会議システム（以下、Zoom）を利用できるパソコン等の環境を整えくださいますようお願いいたします。研究発表会の概要などの詳細は、次号の学会ニュースで御案内します。

記

◆日程

令和４年６月 18 日（土）～ 19 日（日）

◆内容

令和４年６月 18 日（土）

9:30	貸切送迎バス発車 （福井駅東口から福井県立図書館へ）
9:30 ～	受付（福井県立図書館講堂前）
9:50 ～	Zoom の開放
10:00 ～ 12:00	開会挨拶／研究発表会①
12:00 ～ 13:30	昼食休憩／理事会
13:20 ～	Zoom の開放
13:30 ～ 14:30	総会／学会賞授賞式
14:30 ～ 16:30	研究発表会②
17:00	貸切送迎バス発車 （福井県立図書館から福井駅東口へ）
（18:00	情報交換会）

※研究発表は各回４件ずつ（1 件あたり 25 分）、計８件を予定。件数により発表時間を変更することがあります。

令和４年６月 19 日（日）

8:30	貸切送迎バス発車 （福井駅東口から）
9:00 ～ 12:00	現地検討会 （特別名勝一乗谷朝倉氏庭園／名勝養浩館庭園）
12:00 ～ 13:00	昼食休憩／ 福井駅東口バス乗降所へ移動
13:00	貸切送迎バス発車 （福井駅東口から福井県立図書館へ）
13:00 ～	受付（福井県立図書館講堂前）
13:20 ～	Zoom の開放
13:30 ～ 17:00	公開シンポジウム
17:30	貸切送迎バス発車 （福井県立図書館から福井駅東口へ）

※現地検討会は現地参加者のみとします。
※情報交換会は、新型コロナウィルスの感染状況により中止する場合があります。

◆研究発表の申込み

発表は現地発表またはリモート発表のいずれかを選択いただきます。リモート発表はZoomにて行いますので、WebカメラおよびWebマイクを搭載したパソコンか、外付けのWebカメラおよびWebマイクをご用意ください。

発表者氏名、所属、題名、連絡先を明記し、発表概要（200字程度）を添付のうえ、お申込みください。Eメールでの申込みを原則としますが、郵送(ハガキ等)もしくはFAXでも受け付けます。

申込み期限：令和4年4月30日（土）必着

◆発表要旨の執筆要領

全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、現地参加者およびリモート参加者に配付します。提出いただいた発表要旨を、そのまま要旨集の版下とします。そのため、ワープロを使用しての作成をお願いいたします。分量は、A4判で２ページもしくは4ページ、６ページ、8ページとします（奇数ページでの原稿は受け付けませんので、ご注意ください)。Eメールでの提出を原則としますが、郵送でも受け付けます。

１ページあたりの文字数及びページレイアウトは、横書き２段組み、１段あたり25字、40行となります。書式は、学会ホームページよりダウンロードできます。

提出期限：令和4年5月31日（火）必着

◆大会参加の申込み

参加は現地参加またはリモート参加のいずれかを選択いただきます。リモート参加の方はZoomを利用できるパソコン等の環境をお整えくださいますよう、お願いいたします。

なお、現地検討会及び情報交換会に関しましては、現地参加のみとさせていただきます。

貸切バス等の移動手段の調整等のため、Eメール、郵送（ハガキ等)、FAXのいずれかにて事前にお申込みください。お申込みの際には、①氏名、②会員・非会員の別、③参加プログラム（研究発表会・総会・情報交換会・現地検討会・公開シンポジウム)、④現地参加とリモート参加の別、⑤当日に連絡可能な携帯電話番号を明記ください。

申込み期限：令和4年5月31日（火）必着

◆参加費

学会員　2,000円（学生は500円）
非会員　4,000円（学生は1,000円）
※上記金額に資料代、現地検討会費用を含みます。
※参加費は、1日のみの参加でも上記金額を徴収します。
※情報交換会は別途：6,000円程度
※公開シンポジウムのみの参加は無料です。
（シンポジウムのみのご参加で資料を希望される場合は、1,000円／冊で配付いたします）
※リモート参加の方は以下の振込先に下記の期日までに参加費をお振込みください。
※現地参加の方は当日お支払いください。

＜参加費振込先（郵便振替）＞
・加入者名：日本庭園学会
・口座番号：00140 － 3 － 659842
＊リモート参加者の参加費振込期限
令和4年6月3日（金）

◆申込み・提出先

〒910-2152
福井県福井市安波賀町4－10
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館気付
令和4年度日本庭園学会全国大会事務局
（担当者：藤田若菜）
FAX：0776-41-2494
Eメール：w.fujinohana@gmail.com

◆宿泊先のご案内

福井駅付近の主要なホテルは以下の通りです。ご予約はどうぞお早めに、会員各位にてお願いいたします。

ホテルルートイン福井駅前／東横INN福井駅前／福井マンテンホテル駅前／ホテルフジタ福井／天然温泉羽二重の湯ドーミーイン福井など

特別名勝一乗谷朝倉氏庭園（朝倉館跡庭園）

■

令和３年度日本庭園学会関西大会公開シンポジウム「日本庭園学会 30 年　関西からの提言」 総括

日本庭園学会長　大澤伸啓

日本庭園学会は 2022 年（令和４年）に創立 30 周年を迎える。これを記念し、令和４年総会までの約８ヶ月間、計 30 回のリレートークによるオンラインセミナー「庭と園に学ぶ～日本庭園・学のこれまでとこれから」を開催する。そこで、令和３年 11 月６日（土）にオンラインで開催された関西大会は、プレ・イベントとして、これまで関西地区で活躍してきた会員による講演を行い、これからの日本庭園学を展望するシンポジウムを開催した。

仲隆裕関西支部長の趣旨説明の後、４人のパネラーが話題提供を行なった。はじめは名古屋造形大学 名誉教授 岡田憲久さんの「日本の庭　これからにつなぐ意味と形」である。庭とは、自然と人間の関係の文化であるとし、人間と自然との関わりの変遷を庭を通して明らかにした。さらに庭とは生活空間に自然を再現したものであり、変化し続ける生きものであるとした。そして、世界的に「自然との共生」や「環境保全」が叫ばれる中、庭は共生の姿を示し、益々重要性を増していることを日本庭園に携わる者は、十分認識する必要があるとした。私は、自然を変えていくことが文化であると考える。岡田さんの考え方を加味すると、文化の中で最も自然の近くに位置付けられるものが庭であり、これからの環境の時代をリードするものと理解できよう。

２人目は東京農業大学 助教 張平星さんの「素材（石）から見た日本庭園の魅力とこれから」である。石材は庭園の骨格のひとつで、重要な構成要素として熟成されてきた。中世までは、地域で採れる石材を利用したが、戦国時代以降になると、経年風化した名石が好まれ、ブランド化が進んだ。さらに現代は輸入品が多く、世界で流通するようになっている。張さんは、今後も自然感や感性の継承を前提として、新しい素材を取り入れ、変化する現代社会に適応すべきだとした。私も日本庭園において石は欠くことのできない構成要素であり、どのような石を使うかは、重要な選択であると考える。日本の各地では、張さんが報告された以上にさまざまな石材が使用されており、その変遷をつかむことも重要なことであり、研究の進化に期待したい。

３人目は京都芸術大学 教授の杉本宏さんによる「「庭園考古学」の視点」である。考古学研究者の杉本さんは、平等院庭園の発掘調査や保存整備を通して庭園学を深めた。考古学は「もの」を研究する学問であり、庭園学にみられる「精神性」や「美意識」を考えることは得意ではない。しかしながら、この経験は、発掘した遺構の解釈にも有効であるとした。そして「庭園考古学」はすでに形を獲得しており、今後の活動でさらにその姿が明らかになっていくとした。杉本さんと同じ考古学から庭園学に入った私にとって、共感する話であり、今後とも考古学研究者からみた日本庭園学を確立していきたいと思った。

最後の４人目は元離宮二条城事務所の今江秀史さんによる「学の厳密性と社会に開かれた庭の研究」である。今江さんは、「作庭家」は確かな記録に基づいて特定することが求められるとする。しかしながら、記録が増加する近現代の庭でも「施主」のほか「設計者」「現場代理人や監督」、「施工者」がいて、どの人物が作庭を主導したのか特定することは困難であるとした。

そして、研究の厳密性を高めるためには、庭作りを行った集団を研究していくことが必要だとした。私見では、作者に厳密性を求める議論は、近年、美術史学でも盛んであり、庭園学でも今まで以上に研究が進み、議論されることを期待したい。

前2者の報告後には日本庭園の魅力を語る、後2者の報告後にはこれからの日本庭園学を探るとしたディスカッションが行われ、活発に討議された。本学会におけるオンライン・シンポジウムも3回目となり、チャットでの質問や回答など、対面での講演会と違った討議の深化を感じることができた。参加者も60名を超え、盛況裡に開催された。本シンポジウムを企画・運営された関係者の皆様に深く感謝の意を表したい。

11月8日（月）夜には、さっそく第1回のリレートークを担当した。80名を超える方々に視聴いただき、オンライン講演会が学会の普及・啓発にとってきわめて有効であることが実感された。リレートークはこれからも続く。ぜひ多くの人を誘っていただき、日本庭園学会の幅広く、そして奥深い魅力を知っていただければ幸いである。

■

令和3年度　日本庭園学会　関西大会のレポート

菊池正芳　（公益財団法人東京都公園協会）

2021年11月6日（土）に令和3年度日本庭園学会関西大会が開催された。今回もコロナ禍での開催の為Zoomによる開催となったが、オンライン会議も定着したようで今回も活発な議論が行われたのでここに報告する。

公開シンポジウムでは、来年2022年（令和4年）に日本庭園学会が創立30周年を迎えるにあたり、新企画オンライン･セミナー（リレートーク）「庭と園に学ぶ～日本庭園・学のこれまでとこれから」の開催に向けた、プレ・イベントとして関西地区の会員が、現場の声や研究成果を話題提供して日本庭園学のこれまでとこれからを展望した。

ディスカッションⅠでは、岡田憲久さんによる「日本の庭 これからにつなぐ意味と形」及び、張平星さんによる「素材（石）から見た日本庭園の魅力とこれから」を話題提供に、「日本庭園の魅力を語る」をテーマとして議論が進められた。

ディスカッションⅡでは、杉本宏さんによる「「庭園考古学」の視点」そして、今江秀史さんによる「学の厳密性と社会に開かれた庭の研究」を話題提供に、「これからの日本庭園学を探る」をテーマとして議論が進められた。

今回の公開シンポジウムは、日頃の研究成果の発表であるとともに、今後の日本庭園学に対する関西からの提言として活発な議論が行われた。

午後からは、4人の方による研究発表が行われた。発表1は、森泰規さんによる「今後の社会における日本庭園への旅行者ニーズに対応するために」であった。2021年3月に国土交通省北陸信越運輸局が「にいがた庭園街道」を対象とした外国人観光客の受容性評価調査の結果を紹介したものだった。アンケートは3つの

コンセプトからなり、１つは庭園と建築を主体とした訴求で、キーワードは「新潟の美」。２つ目は米どころを訴求しキーワードは「食の王国」。３つ目は酒やワイナリーを訴求した「食の王国」であった。アンケート結果からは、庭園や建築物の本質的な価値として「新潟の美」に対する関心が、「食の王国」よりも高かったこと、しかし、「美の本質」に対する課金の難しさに対する考察が行われた。

発表２は、高橋知奈津さんによる「東近江市金堂地区、近江商人本宅の庭園」だった。本発表では、令和元年、２年の２ヶ年にて行われた「東近江市近代和風建築等総合調査」で実施された建造物とそれに伴う庭園の調査結果の概要が報告された。調査結果からは、建物周辺の限られた敷地の中に、「オモテ」の機能を残しながら露地風の庭園として発展的に継承した点が巧みであったとの報告があった。また、本宅を活動拠点とする近江商人の財力、また庭園づくりにおいて人造自然木を利用するなど新しい技術への対応など、造園に対する近代的な試行錯誤が感じられたとの考察があった。

発表３は、今江秀史さんによる「廣誠院の書院南側の障子に写し出される水面の影絵の仕組み」だ。本発表では、廣誠院の書院南面にはめられた障子に映る、揺らぐ水面の影の仕組みについて分析し、それが偶然であるのか作為であるのかについての解明が行われた。分析の結果、書院南面の障子の全面に反射光を集めるための工夫と思われる痕跡がみられるなど、作為であるのか偶然であるか判然としないが、廣誠院の障子に映し出される影絵は、太陽光の時間条件と、廣誠院の置かれた立地条件を下敷きとしてつくり手の創意工夫により成り立ったものであるとの結論が報告された。

発表４は、仲隆裕さんによる「和中庵の保存と活用の試み」であった。和中庵は近江商人である藤井彦四朗が大正初期に造営した邸宅であるが、老朽化により本館は解体され洋館と客殿が修復されていた。敷地内には斜面を活かした滝や流れを主体とした庭園があるが、給水路が途絶えて水系が判然としていなかった。本報告では、庭園の水系調査の途中経過と和中庵の建物・庭園の特長を活かした活用の試みが報告された。調査の結果、斜面を流れ落ちる水路をはじめとする水系が確認され、今後の復元整備について報告されるとともに、庭園内を鑑賞する園路を復元整備することによって庭園の鑑賞機能が可能となり、和中庵の魅力を高めることが出来るとの報告がされた。

今回の公開シンポジウム、研究発表会もオンラインで行われたが、発表者との質疑応答の他、チャットによる質問、情報提供など、オンラインならではの機能を発揮した発表会となった。同じ場所に皆で集まる対面会議だけではなく、このようなオンライン会議の良さも認識され始めたのではないかと感じている。今後は、現地にて参加できる方は現地出席をし、困難な方はオンラインで参加するハイブリット方式での開催が期待される。

■

第16回日本庭園学会賞の募集のお知らせ

日本庭園学会では、日本庭園や日本庭園に関わる研究に関する業績を顕彰するために、日本庭園学会賞を設けており、今年度は第16回の募集をおこないます。

審査の対象は、論文など学術に関すること、庭園技術や技能に関すること、庭園に関する著作等です。著作等には、映像や写真も含みます。

応募締め切りは、令和4年2月28日（月）必着です。なお、応募書類は返却しません。

この賞は会員ばかりでなく、会員の推薦する者も学会賞の対象者になりますので、庭園学の発展のために、自薦、他薦を含めまして、ぜひご応募のほどをお願いいたします。

令和3年12月

学術委員会委員長
藤井 英二郎

日本庭園学会賞　募集要項

1．（目　的）日本庭園およびそれにかかわる研究に関する業績を顕彰するため。

2．（対象者）日本庭園学会員または学会員の推薦する者。

3．（対　象）
学　術：庭園に関する論文で、庭園学の発展に貢献した者。
技　術：庭園に関する計画・設計・施工、維持管理・運営、遺跡調査、復元整備、修理等庭園技術および技能の発展に貢献した者。
著作等：庭園に関する著作、映像、写真等の業績が極めて優れていると認められた者。また、各種活動により庭園学の発展に寄与した者。
なお、他に奨励賞を設けることができる。

4．（表　彰）総会で学会長が授与し、その内容を日本庭園学会誌に公表する。

5．（応　募）授賞対象者は学会員または学会員の推薦する者とする。
推薦又は応募者は別紙に定めた「日本庭園学会賞推薦応募書（次ページ参照）」と選考に必要な資料を添えること。

■応募書等の送付先：
〒156-8502　東京都世田谷区桜丘1－1－1
東京農業大学地域環境科学部造園科学科
庭園技法材料学研究室内気付
日本庭園学会総務担当

■応募の締め切り：令和4年2月28日（月）必着

■応募に関する問い合わせ先：
信州大学農学部　佐々木邦博
Tel & Fax 0265-77-1500（直通）
E-mail ksasaki@shinshu-u.ac.jp

■

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願いします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願いします。

■

協力者：森本・細井・荒川（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会
今江秀史、加藤友規、マレス・エマニュエル
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2－1
京都芸術大学日本庭園研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局　FAX(075)791-9342

日本庭園学会賞推薦応募書

令和　　年　　月　　日提出

推薦または応募者	氏名　　印 住所
題　　名	
候補者	

推薦または応募理由（400字以内）